

勸善 懲惡 讀切講釋

女ハ奸徳の深たその忠臣たる人をそむけ
 無たものたせんしく又それが為小我身を
 も云ふ句岩藤が惡計ふつる泪の墨
 深みら中老尾上が書置おせへ一記念
 の上草履つまはちりたる立早笛のなる
 明けとゆれぬおほひま引返一たる部家の内

身をかき一たる碓者のたしをれと奥庭の
 意眼のぞらせと續きうち打かへらる鬘りの
 觀音とよを取得一主人の仇を報せらる
 名もお婢の初をぞ二代つづく中老職實に誠忠の喚言とるや

橋 之あやうきと
 故人 鉤雪
 泣のこもれふあはれこころ

大水堂狸昇記



時サ おて門

後叙 重

厚刃 土 文 九